

Ⅱ-2 リハビリテーション学科

1. 概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4-1. 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力（理学療法学専攻）
- 4-2. 対象者の主体的な生活を支援するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な作業療法を提供できる能力（作業療法学専攻）
5. 科学的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4-1. 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（理学療法学専攻）
- 4-2. 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（作業療法学専攻）
5. 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

リハビリテーション学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲のある人材を求める。

1. 理学療法士・作業療法士を志している人
2. 理学療法学・作業療法学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3. 基礎的コミュニケーション能力を有している人
4. 他者を思いやる心がある人
5. 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやりとげる人
6. 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人
- 7-1. 人の運動や動作のメカニズムに関心を持っている人（理学療法学専攻）
- 7-2. 人の生活を専門的な視点から支援し、社会に貢献したいと思っている人（作業療法学専攻）

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念を具現化するため、以下に掲げる特性を備えた理学療法士・作業療法士を育成します。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
2. 全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる。
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術でリハビリテーションの実践ができる。
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる。
5. 問題解決に向けた科学的思考能力と主体的学修能力で自己成長できる。

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

リハビリテーションとは、単に手足の機能回復などの部分的な意味にとどまるものではなく、人間全体として「人間らしく生きる権利の回復（全人間的復権）」を意味するものです。これを遂行するために理学療法士・作業療法士は、科学的思考に基づいた専門的知識・技術を用いて、保健医療福祉チームと協働してリハビリテーションサービスを提供します。

リハビリテーション学科では、様々な状況や環境にある国民のリハビリテーションに対する期待に応えられるリハビリテーション専門職としての理学療法士・作業療法士の育成を目指しています。本学のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域医療・福祉に貢献することができるように構成されています。

(2) 教育課程の編成

教育課程の編成は、人材育成に必要な内容を授業科目として設定し、「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域で編成しています。また、理学療法士・作業療法士の養成施設としての指定規則条件を充足しつつ、選択科目を多く開講し、リハビリテーション学科で掲げた人材育成に必要な科目を配置しています。

教育課程の各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の三領域に配置した各教科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、基礎教育科目→専門基礎教育科目→専門教育科目において、講義内容が順次理解できるように、内容の連続性と関連性を重視しています。教育科目の開講年次および前期、後期への配分については、これらのことを十分に考慮して配置しています。

(3) 教育課程進度表

① 楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

リハビリテーション医学は「ヒト」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教科目は、「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、理学療法士・作業療法士として必要な専門的知識・技術はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えていきますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」が関連付けて学修できるように、「専門教育科目」を1年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形で配置しています。

② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から専門基礎教育科目、専門教育科目を配置しているのは、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習でリハビリテーション領域の広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ 臨床実習

リハビリテーション学は実践の科学であり、そのために必要な臨床実習には多くの時間を割いています。臨床実習は、既修の理論と知識、技術を体験的に学ぶ学修であり、また、臨床実習の体験から、リハビリテーションの現象を意味付け、リハビリテーションを知として学ぶ学修でもあります。特に「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」は、当該領域の講義・演習を学修したのちに実習を配置しています。

④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個性性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をとおして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

1) 履修の上限単位 (CAP 制)

1) 履修の上限単位 (CAP 制)

1) 履修の上限単位 (CAP 制)

学 年	1年間の上限（2022年度以降カリキュラム）
1 年	47 単位
2 年	41 単位
3 年	37 単位
4 年	21 単位

履修登録のスケジュールは該当年度の「履修の手引き」および掲示などで確認してください。

履修登録の内容を誤った場合や、授業の内容が自分の勉強したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直した結果履修科目を変更したいという場合は、定められた期間で履修登録変更の手続きを行ってください。やむを得ない事情で所定の期間外の履修登録及び登録変更は、教務委員長の許可が必要になります。

履修登録変更の手続きについての詳細は該当年度の「履修の手引き」及び学生ポータルサイトで通知されます。

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。履修の手引きとシラバス等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかわる事項を十分に確認しておきましょう。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

- ① すでに単位を修得している科目を履修することはできません。
- ② 教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前または事後に履修人数を調整することがあります。
- ③ 授業時間が重複する科目を履修することはできません。
- ④ 各学年において、上級学年に履修する授業科目を履修することはできません。
- ⑤ 臨床実習の履修には、先修要件があります。先修要件を満たしていない場合は、実習を履修できません。

臨床実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める科目の単位を修得していなければならない。

臨床実習科目	先 修 要 件
臨床実習Ⅰ	2年次前期までの必修科目の単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅱ	3年次前期までの必修科目の単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅲ	3年次後期までの履修科目の単位をすべて修得していること
臨床実習Ⅳ	

3. 単位修得について

1) 卒業要件総単位数（2022年度以降入学生）

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

《リハビリテーション学科》

理学療法学専攻

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	小 計
必修単位	12 単位	37 単位	60 単位	109 単位
選択単位	12 単位以上	2 単位以上	3 単位以上	17 単位以上
小 計	24 単位以上	39 単位以上	63 単位以上	126 単位以上

作業療法学専攻

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	小 計
必修単位	12 単位	37 単位	63 単位	112 単位
選択単位	12 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	16 単位以上
小 計	24 単位以上	39 単位以上	65 単位以上	128 単位以上

2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と自習からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習・実技	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目に 講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価などが加味され、総合的に評価されます。

4. 履修科目について

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

1) 基礎教育科目

必修科目 12 単位、選択科目から 12 単位以上選択

「科学的思考の基礎」

必修科目 5 単位、選択科目から 7 単位以上選択

リハビリテーション学の基礎となる学問的探究心と科学的思考力を養います。

「人間と生活及び社会の理解」

必修科目 4 単位、選択科目から 3 単位以上選択

人間に関する学際的な学問領域について学び、価値観や人間観を育て、主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けます。

「語学」

必修科目 3 単位、選択科目から 2 単位以上選択

語学学修をとおして、他者との交流におけるコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

2) 専門基礎教育科目

必修科目 37 単位、選択科目から 2 単位以上選択

「人体の構造と機能及び心身の発達」

必修科目 17 単位

リハビリテーション学を学ぶ上で必修の基礎知識である人体の構造と機能及び心身の発達について、解剖学、生理学、運動学を中心に学びます。

「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」

必修科目 16 単位、選択科目から 1 単位以上選択

リハビリテーションの対象となる疾病や障害の成り立ち及び回復過程の促進について、基礎医学を学修するとともに、理学療法士・作業療法士の臨床場面において、障害を把握できる能力を養い、問題解決能力の基礎となる知識を修得します。

「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」

必修科目 4 単位、選択科目から 1 単位以上選択

保健医療福祉チームの一員として、かつリハビリテーションを共通言語とした他職種との連携・協働力の育成に必要なコミュニケーションのあり方やチーム医療を総合的に学修します。

3) 専門教育科目

卒業要件：「理学療法学専攻」必修科目を含む63単位以上

「作業療法学専攻」必修科目を含む65単位以上

専門教育科目は、専攻別に以下の区分で設定されています。ただし両専攻において「共通・連携科目」（必修9単位、選択3単位）を設定し、理学療法・作業療法の枠を超え、時勢に対応する広い視野を持つ専門職を目指します。これにより、リハビリテーション学科として、両専攻の学生が互いに将来の様々な領域での協業をイメージすることができます。

「理学療法学専攻」

「基礎理学療法学」

必修科目 6 単位

理学療法の概要を知るとともに、「理学療法セミナーⅠ～Ⅲ」においては学年に応じた臨床実習に向けて科学的思考を模擬的に学修し、かつ学生が主体的に学修する能力を身につけます。これらは、探求型課題解決学習能力の修得に繋がるものです。

「理学療法評価学」

必修科目 7 単位、選択科目 1 単位

疾病や障害に応じた理学療法評価を学び、それらの結果を統合・解釈する能力を養います。

「理学療法治療学」

必修科目 16 単位、選択科目および共通・連携科目の選択科目から 3 単位以上選択

疾病や障害に応じた理学療法を提供するための知識と技術を学びます。また、「高齢期障害理学療法学」では、障害者のみならず、健康な高齢者に対する健康増進や介護予防の領域での予防的リハビリテーションの各論を学びます。

「地域理学療法学」

必修科目 2 単位

地域リハビリテーションの概念・背景などに基づく、理学療法士の役割や他職種との連携のあり方を住環境整備もふくめて学びます。

「理学療法臨床実習」

必修科目 20 単位

臨床実習は、既修の理論と知識、技術を病院等の臨床の場で体験的に学びます。「臨床実習Ⅰ」では、理学療法士の社会的な意義を理解するとともに、臨床実習指導者のもとで理学療法に関連する見学をします。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習指導者のもとで、対象者を理解するための理学療法評価を実施し、理学療法計画を立案します。「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」では、臨床実習指導者のもとで、理学療法評価、計画立案から実施までの一連の過程を実施・体験するとともに、他職種との連携・協働など専門職としてのあるべき行動を実習します。

「共通・連携科目」

必修科目 9 単位

これからのリハビリテーションとして理学療法・作業療法の枠を超え、時勢に対応するために必要な知識と探求する力を養います。「研究法」や「卒業研究」は、卒業後に求められるリハビリテーションの今後を担う人材に必要な知識であり力となります。また、現代社会の背景となっている高齢化社会やジェンダー、職場環境など、幅広い知識を「地域リハビリテーション学・演習」、「ウィメンズヘルスケア」、「リハビリテーション

管理学」、「呼吸リハビリテーション特論」、「災害リハビリテーション」、「軟部組織治療学」をとおして学びます。

【作業療法学専攻】

「基礎作業療法学」

必修科目 6 単位

作業療法の概要を知るとともに、「作業療法セミナーⅠ～Ⅲ」においては学年に応じた臨床実習に向けて科学的思考を模範的に学修し、かつ学生が主体的に学修する能力を身につけます。これらは、探求型課題解決学習能力の修得に繋がるものです。

「作業療法評価学」

必修科目 5 単位

疾病や障害に応じた作業療法評価を学び、それらの結果を統合・解釈する能力を養います。

「作業療法治療学」

必修科目 17 単位、選択科目および共通・連携科目の選択科目から 2 単位以上選択

疾病や障害に応じた作業療法を提供するための知識と技術を学びます。また、「高齢期障害作業療法学」では、障害者のみならず、健康な高齢者に対する健康増進や介護予防の領域での予防的リハビリテーションの各論を学びます。

「地域作業療法学」

必修科目 2 単位

地域リハビリテーションの概念・背景などに基づく、作業療法士の役割や他職種との連携のあり方を住環境整備もふくめて学びます。

「作業療法臨床実習」

必修科目 24 単位

臨床実習は、既修の理論と知識、技術を病院等の臨床の場で体験的に学びます。「臨床実習Ⅰ」では、作業療法士の社会的な意義を理解するとともに、臨床実習指導者のもとで作業療法に関連する見学をします。「臨床実習Ⅱ」では、臨床実習指導者のもとで、対象者を理解するための作業療法評価を実施し、作業療法計画を立案します。「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」では、臨床実習指導者のもとで、作業療法評価、計画立案から実施までの一連の過程を実施・体験するとともに、他職種との連携・協働など専門職としてのあるべき行動を実習します。

「共通・連携科目」

必修科目 9 単位

これからのリハビリテーションとして理学療法・作業療法の枠を超え、時勢に対応するために必要な知識と探求する力を養います。「研究法」や「卒業研究」は、卒業後に求められるリハビリテーションの今後を担う人材に必要な知識であり力となります。また、現代社会の背景となっている高齢化社会やジェンダー、職場環境など、幅広い知識を「地域リハビリテーション学・演習」、「ウィメンズヘルスケア」、「リハビリテーション管理学」、「呼吸リハビリテーション特論」、「災害リハビリテーション」、「軟部組織治療学」をとおして学びます。

〈履修科目一覧 理学療法専攻（2022年度以降カリキュラム）〉

科目区分		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に 必要な単位数
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	科学的思考の基礎	必修 心理学ⅠⅠ 情報科学Ⅰ	生活と運動ⅠⅠ		人間発達学ⅡⅡ					12単位以上 (必修科目5単 位を含む)
	選択	生物学ⅡⅡ 環境科学ⅠⅠ 情報科学演習ⅠⅠ 物理学ⅡⅡ	発達心理学ⅠⅠ 生活科学ⅠⅠ 健康とスポーツⅠⅠ 統計学ⅠⅠ							
	必修	倫理学ⅠⅠ 人間関係の科学ⅠⅠ	生命倫理ⅠⅠ 医療と社会ⅠⅠ							7単位以上 (必修科目4単 位を含む)
	選択	医療と論理学ⅠⅠ 法学ⅠⅠ 教育学ⅠⅠ 北海道史ⅠⅠ	医療と哲学ⅠⅠ 文化人類学ⅠⅠ 医療と宗教ⅠⅠ	ポランティア論ⅠⅠ	音楽ⅠⅠ					
語学	必修	日本語表現ⅠⅠ 英語ⅠⅠ	英語ⅡⅠⅠ							5単位以上 (必修科目3単 位を含む)
	選択		中国語ⅠⅠ	英語ⅢⅠⅠ 韓国語ⅠⅠ		英語ⅣⅠⅠ				
専門基礎教育科目	心身の機能の発達	必修 解剖学ⅠⅡⅡ 解剖学演習ⅡⅡ 体表解剖学ⅠⅠ 生理学ⅠⅡⅡ	解剖学ⅡⅡⅡ 生理学ⅡⅡⅡ 運動学ⅠⅡⅡ	生理学演習ⅠⅠ 運動学ⅡⅡⅡ	運動学演習ⅠⅠ					17単位
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	必修 栄養学ⅠⅠ	病理学ⅡⅡ 薬理学ⅠⅠ 予防医学ⅠⅠ	整形外科科学ⅡⅡ 神経内科学ⅡⅡ 小児科学ⅠⅠ 障害学特論ⅠⅠ	内科学ⅡⅡ 精神医学ⅡⅡ 小児科学ⅠⅠ 障害学特論ⅠⅠ	応急処置法ⅠⅠ				必修を含む 17単位以上
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	必修 リハビリテーション論ⅡⅡ		心の健康科学ⅠⅠⅠ 教育心理学ⅠⅠ	心の健康科学ⅡⅠⅠ	チーム医療論ⅠⅠ		健康政策論ⅠⅠ		必修を含む 5単位以上
	選択		社会福祉学ⅠⅠ		保健医療論ⅠⅠ					

理学療法専攻

科目区分	1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎 療法 理学 学	必修	理学療法概論演習ⅠⅠ 理学療法セミナーⅠⅠ		理学療法セミナーⅡⅠⅠ	理学療法セミナーⅢⅠⅠ			理学療法総合演習ⅠⅠ	6単位
	必修		理学療法評価学(運動系)ⅠⅠ 理学療法評価学演習(運動系)ⅡⅡ	理学療法評価学(神経系)ⅠⅠ 理学療法評価学演習(神経系)ⅡⅡ 臨床判断学(基礎編)ⅠⅠ					
	選択					臨床判断学(応用編)ⅠⅠ			7単位以上
理学療法治療学	必修		運動療法学ⅠⅠ	運動療法学演習ⅠⅠ	運動器障害理学療法学ⅠⅠ 運動器障害理学療法演習ⅠⅠ 神経障害理学療法学ⅠⅠ 神経障害理学療法演習ⅠⅠ 代償・処置理学療法学ⅠⅠ 物理療法学ⅠⅠ 物理療法演習ⅠⅠ 義肢装具学ⅠⅠ 日常生活活動基礎学ⅠⅠ	呼吸・循環器障害理学療法学ⅠⅠ 発達障害理学療法学ⅠⅠ 高齢期障害理学療法学ⅠⅠ 義肢装具学演習ⅠⅠ 神経筋促進治療学ⅠⅠ			必修16単位 と、○を含む 共通・連携科 目の選択科目 の中から3 単位以上
	選択					○高次脳機能障害学ⅠⅠ ○徒手関節治療学ⅠⅠ ○スポーツ理学療法学ⅠⅠ 生活環境学ⅠⅠ			
	必修			臨床実習Ⅰ(理学療法)ⅡⅡ	地域理学療法学ⅠⅠ				2単位
臨床実習法	必修					臨床実習Ⅱ(理学療法)ⅣⅣ	臨床実習Ⅲ(理学療法)ⅦⅦ 臨床実習Ⅳ(理学療法)ⅦⅦ		20単位
	必修		地域リハビリテーション学ⅠⅠ	地域リハビリテーション学演習ⅠⅠ	研究法ⅠⅠ 卒業研究ⅠⅡⅡ	呼吸リハビリテーション特論ⅠⅠ	卒業研究ⅡⅠⅠ	リハビリテーション管理理学ⅡⅡ	9単位以上
	選択				ウイメンズヘルスケア論ⅠⅠ 災害リハビリテーションⅠⅠ	軟部組織治療学ⅠⅠ			

必修科目	33単位	30単位	27単位	19単位	109単位
選択科目	19単位	8単位	8単位	0単位	35単位
計	52単位	38単位	35単位	19単位	144単位
CAP制(履修上限)	47単位	41単位	37単位	21単位	146単位

○卒業要件 126単位以上 必修109単位 選択17単位以上

○「」内は、単位数

〈履修科目一覧 作業療法専攻（2022年度以降カリキュラム）〉

科目区分		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に 必要な単位数
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	科学的思考の基礎	必修 心理学ⅠⅡ 情報科学Ⅰ	生活と運動Ⅰ		人間発達学Ⅱ					12単位以上 (必修科目5単 位を含む)
	選択	生物学Ⅱ 環境科学Ⅰ 情報科学演習Ⅰ 物理学Ⅱ	発達心理学Ⅰ 生活科学Ⅰ 健康とスポーツⅠ 統計学Ⅰ							
	必修	倫理学Ⅰ 人間関係の科学Ⅰ	生命倫理Ⅰ 医療と社会Ⅰ							7単位以上 (必修科目4単 位を含む)
	選択	医療と論理学Ⅰ 法学Ⅰ 教育学Ⅰ 北海道史Ⅰ	医療と哲学Ⅰ 文化人類学Ⅰ 医療と宗教Ⅰ	ポランティア論Ⅰ	音楽Ⅰ					
語学	必修	日本語表現Ⅰ 英語ⅠⅡ	英語ⅡⅠ							5単位以上 (必修科目3単 位を含む)
	選択		中国語Ⅰ	英語ⅢⅠ 韓国語Ⅰ		英語ⅣⅠ				
専門基礎教育科目	心身の機能の発達	必修 解剖学ⅠⅡ 解剖学演習Ⅱ 体表解剖学Ⅰ 生理学ⅠⅡ	解剖学ⅡⅡ 生理学ⅡⅡ 運動学ⅠⅡ	生理学演習Ⅰ 運動学ⅡⅡ	運動学演習Ⅰ					17単位
	疾病と回復過程の促進	必修 栄養学Ⅰ	病理学Ⅱ 薬理学Ⅰ 予防医学Ⅰ	整形外科科学Ⅱ 神経内科学Ⅱ	内科学Ⅱ 精神医学Ⅱ 小児科学Ⅰ 障害学特論Ⅰ	応急処置法Ⅰ				必修を含む 17単位以上
	選択			心の健康科学ⅠⅠ 教育心理学Ⅰ	心の健康科学ⅡⅠ					
	必修	リハビリテーション論Ⅱ				チーム医療論Ⅰ		健康政策論Ⅰ		必修を含む 5単位以上
選択			社会福祉学Ⅰ		保健医療論Ⅰ					

作業療法学専攻

科目区分	1 年		2 年		3 年		4 年		卒業認定に 必要な単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎 療法学	作業療法概論 [1]	基礎作業学演習 [1] 作業療法セミナーⅠ [1]		作業療法セミナーⅡ [1]		作業療法セミナーⅢ [1]		作業療法総合演習 [1]	6 単位
作業 療法学		作業療法評価学 [1] 作業療法評価学演習 (基礎) [1] 作業療法評価学演習 (応用) [1]		作業療法評価学演習 (応用) [1] 作業療法評価学演習 (応用) [1]					5 単位
作業療法治療学	必修			日常生活応用学 (ADL) [2]	身体障害作業治療学 (中枢神経障害系) [2] 身体障害作業治療学 (運動器・内部障害系) [2] 精神障害作業治療学 [2] 発達障害作業治療学 [2] 高齢期障害作業治療学 [2]				必修17 単位 と、○を含む 共通・連携科 目の選択科 目の中から2 単位以上
	選択				高次脳機能障害作業治療学 [1] 就労支援作業療法学 [1] 義肢装具作業療法学 [1] 義肢装具作業療法学演習 [1] 日常生活応用学 (創作分析) [1]				
地域 療法学	必修			福祉住環境論 [1]	地域作業療法学 [1]				2 単位
	必修			臨床実習Ⅰ (作業療法) [2]		臨床実習Ⅱ (作業療法) [6]	臨床実習Ⅲ (作業療法) [8] 臨床実習Ⅳ (作業療法) [8]		24 単位
共通・ 連携科目	必修		地域リハビリテーション学 [1]	地域リハビリテーション学演習 [1]	研究法 [1] 卒業研究Ⅰ [2]	呼吸リハビリテーション特論 [1] 卒業研究Ⅱ [2]	リハビリテーション管理理学 [2]		9 単位以上
	選択				ウイメンズヘルスケア論 [1] 災害リハビリテーション [1]	軟部組織治療学 [1]			

必修科目	33 単位	29 単位	29 単位	21 単位	112 単位
選択科目	19 単位	8 単位	8 単位	0 単位	35 単位
計	52 単位	37 単位	37 単位	21 単位	147 単位
CAP制 (履修上限)	47 単位	41 単位	37 単位	21 単位	146 単位

○卒業要件 128 単位以上 必修112 単位 選択16 単位以上

○ [] 内は、単位数

〈カリキュラム・マップ 理学療法学専攻〉

※DP：ディプロマポリシー

DP1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質	DP2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力	DP3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力	DP4.1. 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力	DP5. 科学的思考をもって主体的に学習し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力								
DP												
科目区分	基礎教育科目			専門基礎教育科目	専門教育科目							
科学的思考の基礎	人間と生活及び社会の理解	語学	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学	共通連携科目	理学療法臨床実習	
1 年 次	物理学 (選2) 生活科学 (選1) 健康とスポーツ (選1) 統計学 (選1) 生物学 (選2) 環境科学 (選1) 情報科学演習 (選1) 発達心理学 (選1) 生活と運動 (必1) 心理学 (必1) 情報科学 (必1)	人間関係の科学 (必1) 文化人類学 (選1) 医療と社会 (必1) 医療と哲学 (選1) 北海道史 (選1) 教育学 (選1) 法学 (選1) 情報科学演習 (選1) 医療と論理学 (選1) 生命倫理 (必1) 倫理学 (必1) 医療と宗教 (選1)	中国語 (選1) 英語Ⅱ (必1) 日本語表現 (必1) 英語Ⅰ (必1)	解剖学Ⅰ (必2) 解剖学Ⅱ (必2) 運動学Ⅰ (必2) 生理学Ⅰ (必2) 生理学Ⅱ (必2) 解剖学演習 (必2) 体表解剖学 (必1)	薬理学 (必1) 予防医学 (必1) 栄養学 (必1) 病理学 (必2)	社会福祉学 (選1) リハビリテーション論 (必2)	理学療法概論 (必1) 理学療法概論演習 (必1) 理学療法セミナーⅠ (必1)					
2 年 次	人間発達学 (必2)	音楽 (選1) ボランティア論 (選1)	英語Ⅲ (選1) 韓国語 (選1)	運動学演習 (必1) 生理学演習 (必1) 運動学Ⅱ (必2)	心の健康科学Ⅰ (選1) 心の健康科学Ⅱ (選1) 教育心理学 (選1) 障害学特論 (必1) 精神医学 (必2) 内科学 (必2) 整形外科 (必2) 神経内科学 (必2) 小児科学 (必1)	保健医療論 (選1)	理学療法セミナーⅡ (必1)	臨床判断学 (基礎編) (必1) 理学療法演習 (特設系) (必2) 理学療法評価学 (特設系) (必2) 理学療法評価学 (運動系) (必1) 理学療法演習 (運動系) (必1)	運動療法学演習 (必1) 運動療法学 (必1)		聴覚リハビリテーション学 (必1) 聴覚リハビリテーション演習 (必1)	臨床実習Ⅰ (理学療法) (必2)
3 年 次			英語Ⅳ (選1)		応急処置法 (必1)	チーム医療論 (必1)	理学療法セミナーⅢ (必1)	臨床判断学 (応用編) (選1) 徒手関節治療学 (選1) スポーツ理学療法学 (選1) 発達障害理学療法学 (必1) 高齢期障害理学療法学 (必1) 神経筋伝導治療学 (必1) 運動器障害理学療法学 (必1) 運動器障害理学療法演習 (必1) 神経障害理学療法学 (必1) 神経障害理学療法演習 (必1) 呼吸・循環器障害理学療法学 (必1) 代謝・免疫系障害理学療法学 (必1) 物理療法学 (必1) 物理療法学演習 (必1) 義肢装具学 (必1) 義肢装具学演習 (必1) 日常生活活動基礎学 (必1)	高次脳機能障害学 (選1) 徒手関節治療学 (選1) スポーツ理学療法学 (選1) 発達障害理学療法学 (必1) 高齢期障害理学療法学 (必1) 神経筋伝導治療学 (必1) 運動器障害理学療法学 (必1) 運動器障害理学療法演習 (必1) 神経障害理学療法学 (必1) 神経障害理学療法演習 (必1) 呼吸・循環器障害理学療法学 (必1) 代謝・免疫系障害理学療法学 (必1) 物理療法学 (必1) 物理療法学演習 (必1) 義肢装具学 (必1) 義肢装具学演習 (必1) 日常生活活動基礎学 (必1)	地域理学療法学 (必1) 生活環境学 (必1)	軟部組織治療学 (選1) ウィメンズヘルスケア学 (選1) 災害リハビリテーション (選1) 聴覚リハビリテーション特設 (必1) 研究法 (必1) 卒業研究Ⅰ (必2)	臨床実習Ⅱ (理学療法) (必4)
4 年 次						健康政策論 (必1)		理学療法総合演習 (必1)			リハビリテーション管理学 (必2) 卒業研究Ⅱ (必1)	臨床実習Ⅲ (理学療法) (必7) 臨床実習Ⅳ (理学療法) (必7)

※DP:ディプロマポリシー

Ⅱ 2 リハビリテーション学科